

都道府県番号	44
都道府県名	大分県

【①□ ②□ ③■】

I. 学校名及び規模

学校名	宇佐市立豊川小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	11
児童数	27	24	19	28	29	23	0	150	

II. 研究の概要

(1) 研究主題

**「よろこびを感じ、生き生きと学び合う子ども」を育てるには
～確かな学力の向上を図る指導法の工夫・改善～**

(2) 研究主題設定の趣旨

1. 学校教育目標から

- ① 目的・・・子どもたち一人ひとりに「生きて働く力」の根幹を成す基礎・基本の学力を徹底して付ける。
- ② 内容・・・魅力ある教育内容をつくり(=授業づくり), 同時に心の教育も推進していく。
- ③ 方法・・・教師は指導方法・指導形態を工夫・改善して, 子どもたち一人ひとりの教育要求にきめ細かく関わる。

2. 新しい学力観から

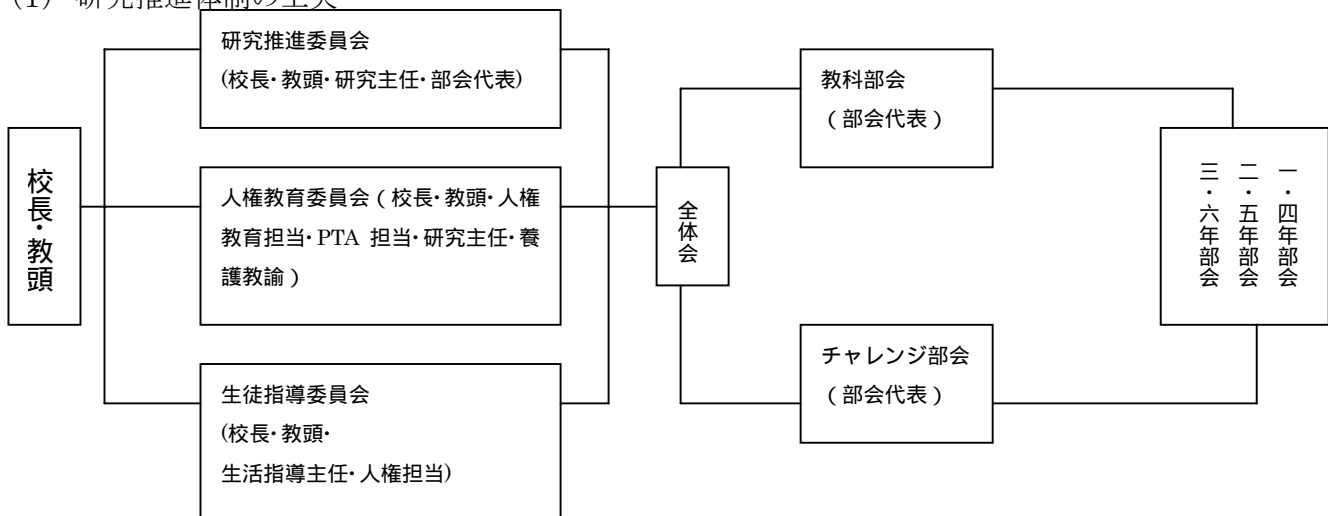
子どもたちにつける学力を, 知識の量のみで捉えるのではなく, 学習指導要領に示す基礎的・基本的内容を身に付けることはもとより, それにとどまることなく, 自ら学び考える力など「生きる力」を子どもたち一人ひとりにつける。

3. 子どもの実態から

- ① わかりたい, 学びたいという強い要求をもっている。
 - ② 算数的活動・国語的活動を好み, 積極的に学習に取り組む。
 - ③ 体験的活動を取り入れた学習に意欲的に取り組む。
- このような実態が子どもたちにある。

III. 研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



- ① 3つの委員会を機能させることにより, 研究の目的・方法・内容を確かなものとしている。
- ② 1・4年部会, 2・5年部会, 3・6年部会ごとにきめ細か担当が一人ずつ所属し, 子どもたち一人ひとりのニーズに速やかに応じられる体制をとっている。
- ③ 教科部会とチャレンジ部会を設け, 基礎・基本の学力と, 各教科でのより発展的な生きて働く学力が有機的に結びつくように工夫している。

(2) 研究の実際

①指導法の工夫と改善

i. 「**とよかわ**」の学習過程を組み、その各段階に評価規準を設定し、子どもたちの学びを見取ると同時に、次の活動へ生かしている。【**と** 問いをもつ、課題をとらえる **よ** 予想しor読み **か** 考え、

関わり合い **わ** わかる】

- ii. 1単位時間にも評価規準及び評価基準を設定し、子どもたちの学力の到達度を見取ると同時に、次時の学習へ速やかに対応している。
- iii. 授業の終末で「ふりかえりカード」を■興味・関心・態度 ■知識・理解 ■表現・処理 ■思考の4観点を基軸に児童が記入し、その結果を次時の学習へ生かしている。
- iv. 学習の形態を、1単位時間ごとに、また、1単位時間の中でも、一斉、習熟度別、課題別、TT指導と、学習に応じて変化させることで、学習を発展させたり回復させたりして、子どもたち一人ひとりのニーズに応じている。

v. 毎時間、評価規準及び評価基準、支援方法を設定し、**座席表指導案**を用い子どもたち一人ひとりの学習の進捗状況や、前時との関連で学力の定着状況を見取ること、一人ひとりをきめ細かく指導することができる。

【座席表指導案に記す内容】

■個人の氏名		
前時の評価	前時の自己評価	本時の評価
■学習の記録		
■気付いたことのメモ		

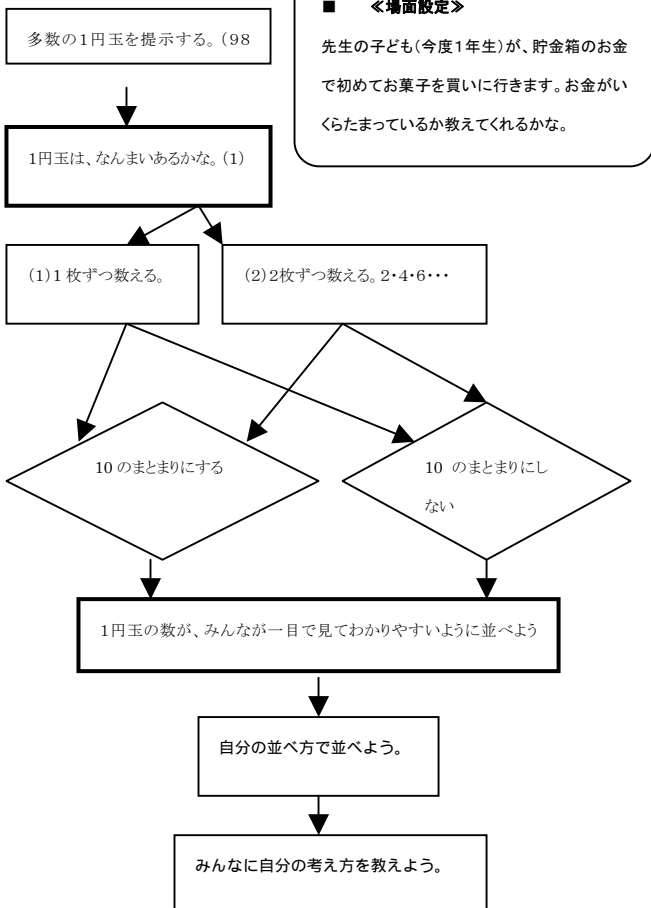
②具体的な実践<<1年算数科「100までの数」>>を挙げ、研究の実際を示す。

第1学年 算数科学習指導案

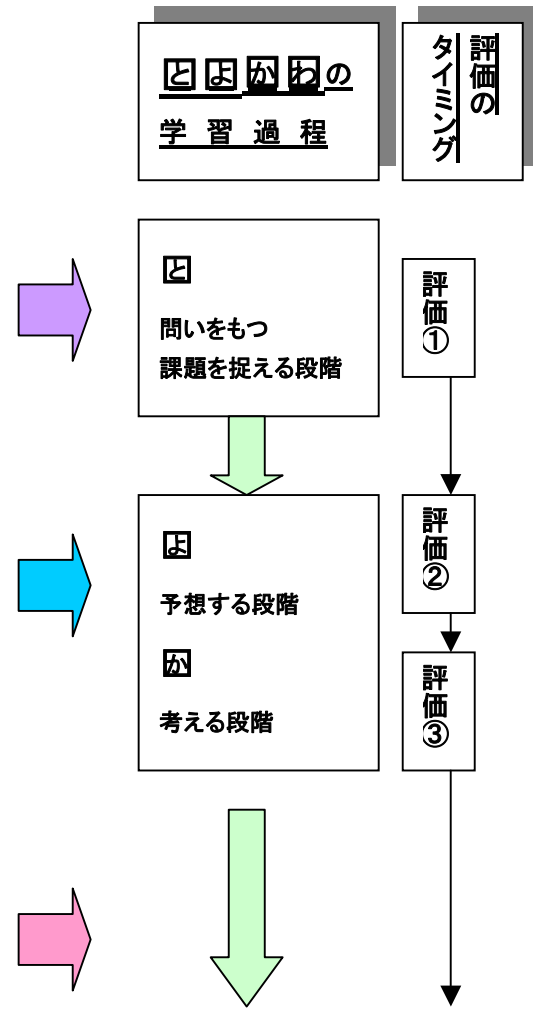
指導者 坂本深雪・渡邊一司

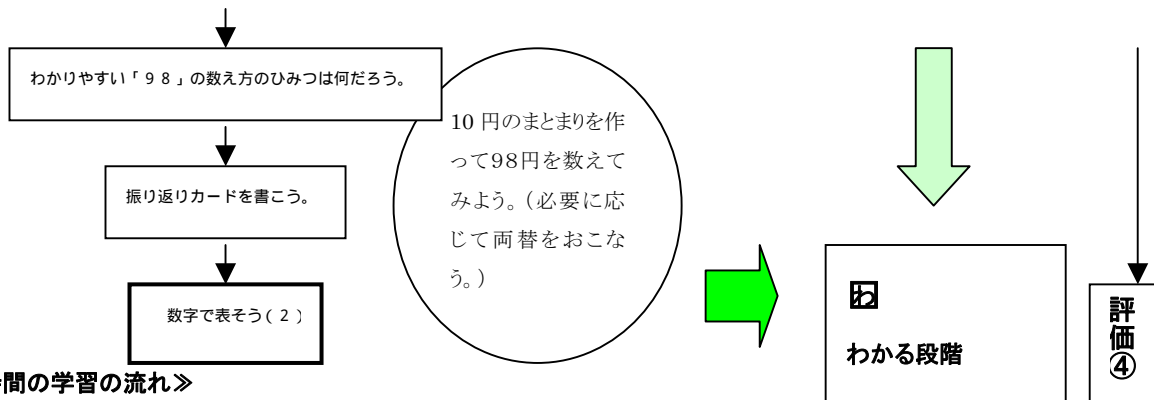
1, 題材 たくさんの1円玉を正確に数え、数字に表そう。

2, 指導計画 (総時数4時間)



■ <場面設定>
先生の子ども(今度1年生)が、貯金箱のお金で初めてお菓子を買いに行きます。お金がいくらたまっているか教えてくれるかな。





《1時間の学習の流れ》

- (1) 題目 1円玉の数が、みんなに一目で見てわかるように並べよう。
- (2) 主眼 1円玉の数が、みんなに一目で見てわかる並べ方を、考え出し合うことにより、10ずつのまとまりを作ることのよさに気付くことができる。
- (3) 展開

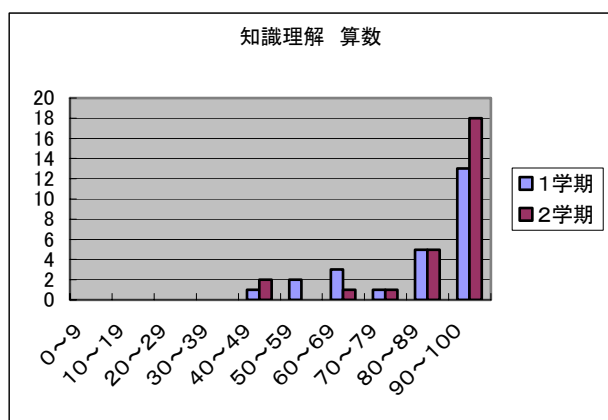
《学習過程》

- ☑ 問いをもつ、とらえる ⇒ ■1円玉の数が、みんなが一目見て、わかりやすいように並べよう
- ☑ 予想し、関わり合い、考える ⇒ ■自分の考え方で並べてみよう。みんなに自分の考え方を教えよう
- ☑ わかる ⇒ ■なぜわかりやすいのか考えよう。ふりかえりカードを書こう

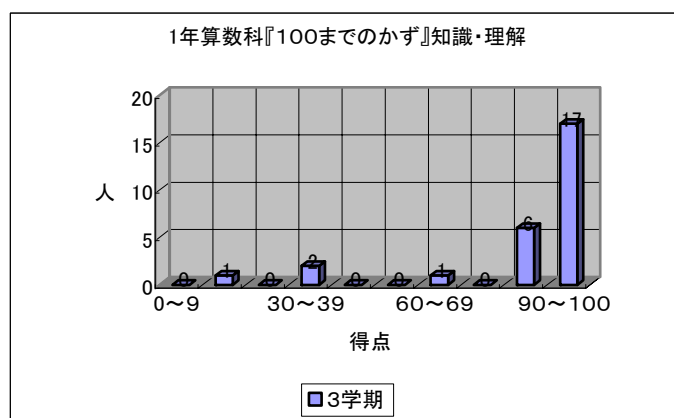
以上のような学習過程で指導及び支援を行い、学習を進めた。さらに、☑ 予想の段階で、思考力「10のまとまりをつくっている」、☑ わかるの段階で知識・理解「10ずつまとめて数えるよさがわかる」の評価規準を設定した。また、「この1時間での評価規準」を以下の様に設定した。

評価基準	評価基準		
	十分満足(A)	ほぼ満足(B)	努力を要するC
10のまとまりを作ることが、一目で見て、みんなに分かりやすい並べ方であることに気付くことができる。	10のまとまりを作ることが、一目で見て、みんなに分かりやすい並べ方であることに気付き、常に学習に生かそうとしている。(関心・意欲・態度)	10のまとまりを作ることが、一目で見て、みんなに分かりやすい並べ方であることに気付くことができる。	T1, T2の指導や支援によって、10のまとまりを作ることができる。

■現1年生の算数科知識・理解における得点分布【1・2学期】



■現1年生の算数科「100までのかず」知識・理解における得点分布【3学期】



《実践を通して明らかになったこと》

- ①85%超の子どもたちが、80~100点の範囲にいることから、学習指導が有効であったと言える。
- ②次第に高得点側に推移していることから、きめ細か指導の効果が表れている。
- ③学習につまずいていると思われる4名の児童については、指導方法を変える、教材・教具を変える、指導のステップを細かくするなどの、一層の指導方法の工夫・改善が必要である。
- ④現1年生の算数科指導には、T・Tによる習熟度別指導が有効であることが、共通理解された。

(3) 研究の成果と課題

- 指導計画の「と・よ・か・わ」の各学習過程に評価規準を設定し、1単位時間の授業にも「と・よ・か・わ」の学習過程を設定し、重要な段階で評価基準にもとづき、子どもたちの学習状況を評価することで、一人ひとりの理解や思考のようすを見取ることができ、次の学習へ速やかに活かすことができた。
- 「初めてこんなにたくさんの一円玉をかぞえた。」「数えたのが98円で正解だったのがうれしい。」「10づつまとめると数えるのに、とても便利だった。」の聲が子どもたちから多くだされた。子どもたちに身近な具体物を教具として使うことのよさが授業研究会の中で確認された。また、一人ひとりの「ふりかえりカード」を見取ることによって次の学習の教具を変えるなど、改善することができた。
- T1、T2が子どもたちの学習の様子を細かく見取り、互いに持ちえた学習についての情報や「ふりかえりカード」を共通理解する中で習熟度別学習が成立した。「教師一人では不可能な授業内容や授業形態であった。」という共通認識をもち、授業研究会でも共通理解した。
- これまでの実践から言えることは、複数の指導者により、座席表指導案や個人カルテ(座席表指導案の集積されたもの)を活用し、一人ひとりに行き届いた指導ができたことや、子どもたちに ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ の学びで学習方法が体得され、自己学習力がつき、関心や意欲が高まり、子どもたちの学力が向上したということである。CRT(標準学力検査)や、形成テスト、チャレンジ学習の結果を適宜捉えたり、座席表のチェックや評価規準による事後評価等の客観的なデータを得、分析を試みるのが指導法の工夫・改善へとつながっている。
- 複数指導体制が確立し、子どもたちもそのことをきちんと期待し、受け入れている。日々の授業実践の中では、C評価にあたる子どもに T2がつき学力を回復したり、また時間外に個人指導する姿も日常のことである。これは、多くの教師がかつて「学級王国」を築いていたことから考えると、大きな変革であると言える。
- 座席表指導案を常に活用し(「㊦・㊧・㊨・㊩」の段階では必須)、それを集積した個人カルテで子どもたちの学習をきめ細かく見取ったことが効果をあげている。
- ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ の学習過程(問いをもつ、捉える⇒予想する・読む⇒関わり合う・考える・考え合う⇒わかる)を常に意識しながら教科指導をおこなっているが、この学習過程を効果的に活かす国語科・算数科・生活科・総合的な学習の時間での指導はどうあるべきかを次の方策で迫りたい。
 - (ア) 伝え合う力を重視した指導での具体的評価活動は、いつ、どこで、どのように行うのが効果的か。
 - (イ) 子どもたちの学力の定着をみるためや、指導法の工夫と改善のために学習過程の各段階で「ふりかえりカード」を使っている。その効果的な活用方法を実践を通し共通理解していく。
- 国語科・算数科での『学力の回復の方法』(習熟度別・一斉・TT指導)と内容(学習材のあり方)を明らかにする。

(4) 研究成果の普及の方策

・公開研究会実施

平成14年度学力向上フロンティア事業 第1年次発表(平成14年11月15日)	
平成15年度第1回公開校内研究会	(平成15年 6月25日)
平成15年度第2回公開校内研究会	(平成15年10月 1日)
平成15年度第3回公開校内研究会	(平成16年 1月28日)
第一回駅川ブロック学校間連携全員学習会	(平成15年 1月22日)
第二回駅川ブロック学校間連携全員学習会	(平成15年 8月 6日)
その他	

- ・年4~5回 駅川ブロック4校校長・研究主任合同会議
- ・年1回 駅川ブロック4校合同先進校(佐賀・熊本)視察および実践交流会
- ・平成14・15年度実践事例集記載
- ・地域、保護者への発信・・・月2~3回の学校便り、回覧板において豊川方式学習の進め方、児童の変容などをお知らせし、毎月19日の宇佐教育の日には公開授業を行い、開かれた学校づくりに努めてきた。また、保護者役員研修の日には「確かな学力」の基盤は健全な生活にあるということで、児童の生活面から、心の発達に親がどうかかわっていけばよいか、ともに検証し、よりよい子育てをしていこうと話合ってきた。

⑧ 学力向上フロンティア事業 第3年次

公開研究発表会

(平成16年10月6日・・・予定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|-------------|--------------|------|----|
| 【新規校・継続校】 | 1 5年度からの新規校 | ■1 4年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | 7～12学級 | | |
| | 13～18学級 | 19～24学級 | | |
| | 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | T・Tによる指導 | | |
| | 一部教科担任制 | その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 |
| | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | 有 | 無 | |

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

- ・座席表指導案(個人カルテの蓄積)
指導法の工夫改善につながるデータベースとして、各学習段階において記入していく。
- ・評価規準の設定による指導の徹底
評価計画にそった評価規準の設定により、毎時間の児童の到達度を明確にもつ。